

--	--

議 事 録

会 議 名	第10回 杉並区児童館等のあり方検討会	
日 時	平成18年7月20日(木) 19時00分～21時00分	
場 所	杉並区役所 第9会議室	
出席者	委 員	増山会長、菅原委員、川村委員、能登山委員、野田委員、中井委員、仁比委員、上原委員、加藤委員、重藤委員
	事務局	[児童館] 岡崎成田西児童館主査、島田下井草児童館主事、畠山和泉児童館主事 [児童青少年課] 白垣児童青少年課長、小林康夫計画調整担当係長、阿部事業係長、林田管理係主査、横関児童館運営係主査、小林武彦事業係主査
傍聴者	4名	
配付資料	事 前	1 第9回検討会議事録
	当 日	1 会議次第 2 子どもからのアンケート結果について(資料34) 3 児童館等のあり方検討会の主な意見(資料35) 4 区民・NPO等との協働化のイメージ(資料36) 5 あり方検討会積み残しの課題
会議次第	1 開会挨拶 2 第9回議事録について 3 資料説明 4 子どもとの意見交換の結果について 5 これまでの議論のまとめについて 6 その他	
発 言 者	発 言 内 容	
1 開会		
会 長	《開会挨拶》	
2 第9回議事録について		
会 長	既に配布されている第9回の議事録について確認をお願いします。何か訂正するところはありませんでしょうか。	
	《特になし》	
会 長	では、議事録を確定いたします。	
3 資料説明		
会 長	資料34から資料36の説明を事務局からお願いします。	
事 務 局	《資料34について説明》	
会 長	この資料はアンケートでの結果です。先ほど2時間少々、荻窪北児童館で子どもからヒアリングを行ないましたが、それらの結果も後ほど参加した委員にもご発言をいただきながら、この資料と併せて詳しく議論していきたいと思えます。続けて他の資料の説明をお願いします。	
児童青少年課長	《資料35、36、あり方検討会積み残しの課題について説明》	

4 議題1 子どもとの意見交換の結果について	
会 長	<p>今日は、これまでの議論をまとめるということが一つの大きな課題になります。資料35がこれから作られる報告書に予定される項目であり、議論されてきたことの内容です。かなり確定した内容あるいは出された意見止まりのものもあります。</p> <p>また、最後にご説明いただいた積み残しの課題の議論については、議論の時間を残したいと思いますが、前回までの議論からまとめに至る途中で、子どもの意見を聞くということになり、今日、荻窪北児童館を会場にして、学童の子どもたち、児童館利用の小学校高学年の子どもたち、それから中高生にヒアリングを行ないました。</p> <p>それらを重ねてみると、これまで我々が議論してきたことの確信を持てた部分もありますし、少し修正が必要ではないかということもあと思います。20分程度の時間で資料34と重ねて今日の児童館でのヒアリングの状況をご説明いただきながら、子どもの声についての整理をしておきたいと思います。</p> <p>今日集まった子どもたちは、中高生は特に中高生委員会を運営している子どもたちですので、資料34のアンケートの声とは良い意味で違う部分もあったのではないかと思います。</p> <p>参加した委員の皆様からのご感想も含めて、資料34のアンケートに重ねる形で、子どもの声を押さえておきたいと思います。ヒアリングについて事務局からご報告はありますか。</p>
事 務 局	<p>結果について掻い摘んでご報告したいと思います。児童館利用の子どもたちについては、三年生から六年生まで8人の子どもに集まっていただきました。</p> <p>質問1「いちばん安心できる場所は？」については、「家」が6人、「学校」が1人、「その他」が1人です。ちなみに「その他」については秘密の場所だそうです。</p> <p>質問2「いちばん楽しく過ごせる場所は？」については、「学校」が1人、「児童館」が2人、「家」が3人、「その他」が2人となっています。「その他」については、本屋さんとかブックオフ、それから友達の家という意見がありました。</p> <p>質問3「児童館の良いところ」については、「ゲームができる」「体育館が広い」というようなことを挙げている子どもが多かったです。</p> <p>質問4「児童館の良くないところ、いやなところ」については、「ゲーム利用についての制限に対する不満」「入館票を書くのが面倒くさい」というような意見がありました。</p> <p>質問5「小学生の遊び場を、学校の中に移すのは？」については、全員が反対でした。イメージとして学校の中ということは学校のルールに縛られてしまうのではないかということがあるようです。例えば学校だと「廊下を走らない」「右側通行をしなければならない」というようなルールがありますが、きっと学校の中の児童館だとそういったルールに縛られて、自分たちの自由な遊びができないのではないかということだと思えます。また、学校はそんなに広くないという現実的な意見がありました。一日中監視されているようで嫌だという意見もありました。</p> <p>学童クラブの子どもについては、三年生と四年生の11人に聞いています。</p> <p>質問1「いちばん安心できる場所は？」については全員が「家」ということでした。</p> <p>質問2「いちばん楽しく過ごせる場所は？」については、「児童館」が2人、「家」が3人、「その他」が9人となっています。「その他」については、ディズニーランド、友達の家、公園、プールという意見がありました。</p> <p>質問3「学童クラブの良いところ」については、「友達がいる」「いろいろな部屋がある」「まんがが読める」「図書室・図工室があって、それぞれ好きなことができる」というような意見がありました。</p> <p>質問5「学童クラブを、学校の中に移すのは？」については、「賛成」が3人、で「反対」が6人でした。賛成の理由としては「学校から学童へ行くときに変な人に声をかけられることがない」という移動に関する意見がありました。反対の理由</p>

	<p>としては「授業と学童がお互いに邪魔になるのではないか」ということがありました。児童館・学童クラブは大きな声を出したり、騒いだりする場所ですので、高学年が授業をやっている自分たちは遊びを控えたりということがあるので、発散できないのではないかという意見がありました。</p> <p>質問6「学童クラブの時間を延長するのは？」については、「賛成」が5人、「反対」が2人でした。途中5時帰りの子どもがいましたので、数が減っております。これについては6時半まで学童を延長するということで聞きましたがこういう結果になっております。</p> <p>質問7「学童クラブに言いたいこと」については、「外出禁止にしないでほしい」「屋上に出たい」「先生が遊んでくれることがあるのでありがたいと言いたい」というような意見がありました。</p> <p>中高生については11人に聞きました。中学生が5人、高校生が6人という内訳です。</p> <p>質問1「いちばん安心してほっとできる場所は？」については、「家庭」が5人、「学校」が1人、「児童館」が3人、理由としては自由にバスケットができるからでした。</p> <p>質問2「放課後や休日にいちばん自分らしくいられる場所または時間は？」については、「自分の部屋」「友達といるとき」というのが多かったです。また「趣味の時間」「部活」という子もいました。あとは「自分の部屋が一番」という子もいました。</p> <p>質問3「中学の余裕教室を使った「たまり場」があったら使用しますか？」については、「する」が5人、「しない」が6人でした。現役の中学生は1人を除いて「しない」という意見でした。</p> <p>質問4「児童館が今より遅く開いていたら使いますか？」については、「週2回以上使う」が5人、「週1回程度」が2人、「月に1回程度」が1人、「あまり使わない」が3人でした。その理由としては、児童館で遅くなっているということであれば親が安心する、つまり児童館であれば、遅くまで遊ぶ理由が親に言いやすいという意見がありました。「何時まで開いていたら良いですか？」ということで聞いたら、「8時まで」という子が3人と、「9時まで」というのがありました。さすがに「9時以降」はいませんでした。ちなみに、ゆう杉のような利用の仕方が良いのではないかと、ゆう杉の中高生委員をやっている子からの意見もありました。ゆう杉については7時まで一般利用で、7時以降9時までが団体利用という使い方になっています。</p> <p>質問5「ゆう杉のような中高生専用の施設が他にも必要と思いますか？」については、「はい」が8人、「いいえ」が3人でした。「ゆう杉のような施設はコストがかかるので、その分を他の児童館に回せば、もう少し充実するのではないかと」というご意見もありました。それから、できるとすればどのようなものが良いかどうか聞いたところ、今までのゆう杉とは違ったようなイメージで、なごみ系・癒し系のものが良いのではないかと意見がありました。「いいえ」の理由の中では「小学生が混じっていた方が落ち着くので、今までの児童館で充分です」という意見がありました。一方でバスケットをやりたい子どもについては「小学生は邪魔だ」という意見もありました。</p> <p>質問6は聞いておりません。</p> <p>質問7「家族や学校の先生意外の大人と交流してみたいですか？」については、「はい」が8人、「いいえ」が3人でした。</p> <p>質問8「児童館に一言メッセージを」については、「今のままで良い」「小学生100人は多すぎる」「万人受けするように」という意見がありました。</p>
<p>会 長</p>	<p>今日の小学生・中学生のヒアリングの結果をだいたい過不足なくご説明いただきました。ヒアリングに参加された委員の方で感想という形で結構ですので、これまで議論してきたことと関わって、子どものナマの声を聞いてこの点は再検討しなければいけないのではないかとというような視点から、ご発言をお願いします。</p> <p>今日のヒアリングの機会を急遽提案した私としては、子どもの声を聞いて良かつ</p>

	<p>たと思いました。子どもたちは実に良く考えているということを感じました。大人の我々が考えていることとは別の視点で、親のことや経済的なことまで、子どもの視点で考えているというのがわかりました。時間は短かったですが、途中で終わるのが残念なくらい話は盛り上がりました。そこには、児童館、学童あるいは中高生委員会等で子どもたちが育ってきている姿そのものがパノラマのように見えて良かったと思います。</p> <p>これまで議論してきたことと関わらせながら、この点は押さえておかなければいけない、あるいは課題なのではないかということがあればご発言をお願いします。</p>
委員	<p>今日は子どものナマの声を聞くことができて良かったと思います。今まで児童館の現場で子どもの声を聞いていますが、学童や児童館を学校の中に移すのはどうかということは初めて聞きました。そのことは子どもにとってどうなのかということは疑問点でしたので、聞くことができて良かったと思います。</p> <p>賛成の意見は「安全」「近くて便利」「校庭がある」ということだと思いますが、「反対」の意見がかなりあって、それがかなり具体的な意見だったというのがとても新鮮でした。子どもたちにとって、学校は勉強するところ、児童館は遊ぶところだということを理解しているということが確認できました。</p> <p>恐らくイメージがわからない部分があったとは思いますが、それなりに考えていて学校とは違う空間に遊ぶところがあると良いような意見がかなりあったように思いました。</p> <p>また、中高生の意見でいろいろな大人と接するのが良いのは、学校や家庭ではない大人と接することで違う面の自分が見られるということや、学校にいると監視されているように感じるということなど、思っていた以上に具体的に良く考えて意見が出ていたのが印象的でした。</p> <p>私の個人的な意見ですが、「放課後子どもプラン」が出されて、全児童対策と学童クラブを一体化し、学校の中で運営という話が出ている中で、学校内で一日子どもを閉じ込めてしまうというのは、子どもの健全育成という面から見てどうかと非常に疑問に感じていましたので、当の本人の声を聞くことができて本当に良かったと思います。</p>
会長	<p>特に児童館を利用している小学生、それから学童を利用している子については、学童を学校に移す、あるいは児童館のような機能を学校に移すという空き教室利用という大きな論点はこれまで議論してきましたが、それについて子どもたちのアンケートの数と今日の子どもたちのナマの声を重ねて、どのように理解するのかというのは非常に大きなことだと思います。いま出されたご意見は、子どもの声をどのように受け止めるのかということだと思います。</p> <p>例えば、いままで報告されていない中で、学童を学校に移すことに賛成という意見の中には、場所が近いということに留まらず、学童保育が学校内にあると授業中に逃げて行きホッとできるから賛成という意見もありました。同じ賛成でも場所が近いということだけではなく、学校というもののイメージと学童のイメージがそこに子どもらしい言葉で現れていると思います。そういう賛成もあるということを頭に入れて欲しいと思います。それは我々の想定を超えた思わぬ意見ですが、それなりの切実な子どもの声でもあると思います。</p>
委員	<p>いまの子どもたちは私たちが子どもの頃と違い、保健室の利用の仕方が全く違います。そういうところと近いものがあるかもしれません。</p>
会長	<p>例えば、学校の中に学童を移すとしても、相当のことを考えなければなりません。ただ場所を持っていけば良いというレベルではなく、機能や質を相当議論しておかないと、簡単にはいかないということが、子どもの意見にも現れていたように思います。</p>
委員	<p>高学年が勉強しているのにその邪魔になるとか、大声を出してしまったら迷惑になるというような話しが出ていて、そこは非常に驚きました。</p>
会長	<p>児童館や学童は大声を出したい、大声を出せる場所なわけですね。</p>

委 員	ざわざわして楽しい場所なのでしょうね。
会 長	そこが学校に行ってしまうと、6時限まで勉強している人たちに迷惑をかけてしまうのでまずいのではないかと。また、移す間には改築の時間がかかるので、そのときはどうするのでしょうか。予算はどうなるのか、税金が大変ではないですか、というように子どもなりに考えながら意見を言っていました。
委 員	子ども自身からも安全について、「変な人に会わないで済むようになる」ということは皆が言っていました。
委 員	その学校に通う子どもは良いけれど、外から来る子どもは困るのではないかと心配していましたね。
委 員	自分だけではなく、他の子を思いやっていましたね。
会 長	今日は子どものナマの声を聞いたことによって、ふくらみができるように思います。ですから、学童を学校に移すとしても相当中身を議論しなければいけません。つまり学校と児童館あるいは学校と学童の質の違いを、子どもたちは非常に意識していますし大切にしようとしています。学校は学校できちんと学ぶ場所であるという認識を持っています。それが渾然一体となることによって、ご迷惑をかけることになっては困るというようなことも含めて言っておりましたから、そういう子どもの声はきちんと受け止めて報告書にまとめなければなりません。 それから、先ほど出されていまして中高生の声なども受け止めなければならないと思います。
委 員	開館時間の延長については、8～9時くらいまでは良いけれども、それ以上長くは必要ないという意見を聞いたので、少し意外に感じました。 それはお家の門限にも関わっていたとは思いますが、門限はだいたい7～8時なので、長くても9時くらいまでは利用したいという意見でした。また、8時までで利用したいという子が一番多く、半数以上だったのは意外でした。
委 員	ホールというか体育室の時間の住み分けは、すごく必要なのではないかと思います。小学生の子どもたちは、衝立を外して欲しいだの付けて欲しいだの、広くして欲しい狭くして欲しいなどとも言っていました。中高生は特に、自分たちが遊んでいると小学生の子どもにボールを当てて怪我をさせたこともあるようなことを言っていました。こうしたことを聞くと、皆が使えるのが良いのですが、伸び伸び遊ぶためには、曜日や時間を決めて我慢させるなど使い分け住み分けをしないと、それぞれが発散できないまま不完全燃焼で終わってしまうのではないかと思います。
委 員	小さい子との関わりは良いけれども、いつも気を使っていなければならないのは嫌だというのがあるようです。
委 員	ちゃんとその心理も自分で分析できていますね。
委 員	小さいお子さんを連れてくるお母さんたちが話す場が必要かもしれないけど、遊び場としてきちんと確保して欲しいという意見もありました。
委 員	いまの住み分けというか時間的な区別の問題ですが、一つには前回見ていただいた中高生の専用タイムがある児童館は、中高生の利用が多いという大まかな傾向が出ていることから言ってもそうであると思います。もう一つは、どの児童館でも時間的な区分ができるかということ、施設的にも無理なところもあります。結局、一つひとつの児童館を見て条件を考えながら対応していくことが、特色ある児童館づくりにつながっていくと思います。 簡単には結論は出せませんが、全ての児童館が0～18歳までフルセットで受けなければならないのかという議論とも関連すると思います。確かにある程度の面積がある体育室が柵でいつも区切られている状況は、外出したいあるいは大きな声を学校にあると出せないというようなことと通じていて、ある程度エネルギーを発散したいというところと繋がっていると思います。 そのあたりがいくつかの課題で、特色ある児童館というのはどういう児童館なのか、全館同じ機能を全て持たないといけないのか、という議論と密接に繋がると思

	います。
委員	職員との関わりで、「人が少ないのに遊んでくれてありがとう」とか「遊んでくれる大人がいるから利用する」というのがありましたが、それができきれていないというのも問題だと思います。
会長	一方で職員に対する感謝の言葉、あるいは職員がいることの意味が小学生から語られたのと同時に、中高生からは「職員が小学生になめられ過ぎている」という厳しい言葉もありました。「もう少しきちんとしつけなければならない」という意見もありました。 職員のいる意味というか役割が重要であるということが、言葉で表現されていたと思います。他に押さえておかないといけないことはございますか。
委員	今日は一般利用の子どもと学童の子どもたちとお話をしましたが、それぞれの立場から意見が出されて、学童が帰る時間は大変混雑するということに対して何か意見があるのかと思いましたが、あまり意見は出ませんでした。そういうざわざわしたことに對して、子どもは意識していないようです。 職員からみると、ざわざわしていると怪我をしたり言い争いもあったりして難しいと思いますが、子どもたちは意外とそんなに気にならないようなので、そんなに目を配らせておかなくても良いのかなという気がしました。
委員	自然にわきまえてお互いに気遣っている部分もあるかもしれませんね。
委員	家庭にはない良さがありますね。
会長	集まってざわざわしている雰囲気は逆に子どもにとっては居心地が良いのかもしれませんが、大人だと綺麗に住み分けというように考えますが、子どもは群れていた方が良いのかと思うかもしれません。中高生はそれぞれ個性が出ていますので、小さい子どもがいると思いきり発散できないと言うような意見もありますし、一方では中高生と小学生と混じっていた方がほのぼのとして良いという意見もありますので、大人がだんだん分かれていくのと同じように、なかなか一所くたにはできないと思います。単純に住み分ければ良いということではない部分も捉えていると思います。 また一方では、ゆう杉のように思い切りアクティブに中高生が活躍できる場所が良いという意見を持つ子もいれば、激しすぎて和めずもう少し静かなところを求める子もいますので、このように中高生になると難しさがあると思います。
委員	お話を聞いていて、子どもとの意見交換に参加できなくて残念だと思いました。児童館の機能というものが浮き彫りになってきていて、一つは今まで議論してきたケア機能・居場所機能というのがすごくあると思いました。学校の中にあるとそこに逃げ込めるという意見が象徴的だと思います。あと、本当に遊びの機能がすごく発揮されていると感じました。自由に遊びたい・自由に居たいというのを感じました。 資料34のアンケート見ても、遊びのプログラムの豊かさ・多様なプログラムができていて、会長が先ほどおっしゃいましたが、子どもにはいろいろな個性があるのでそれぞれの個性に応じて選べる多様さがもう既に実現されていて、お互いに上手くやっているという感じを受けましたので、遊びの機能とケア機能が上手く出来れば良いと思いました。
会長	今日のヒアリングと資料34アンケートも含めて、もう少しじっくりと整理して、いままでの議論とつぎ合わせる作業は残っていると思います。いずれにしても、小学生・中高生・学童・児童館・ゆう杉等々の中高生委員会の子どもの意見を聞いたことによって、重要な論点と関わる場所のふくらみが出てきたと思います。
5 議題2 これまでの議論のまとめについて	
会長	これからの時間は、積み残し課題について議論したいと思います。資料35のような形でまとめていくとなると、まだ押さえが効いていないところが見えてきてしまったところだと思います。資料35とあり方検討会の積み残しの課題を重ねなが

	<p>ら、特にまだ一度も議論していない「2 青少年の自立応援」と「6 学童クラブの需要増への対応」について明確にしておきたいと思います。その後「1 区民・NPO等との協働の推進」からもう一度メリハリをつけて、いままでの議論を確認するという形をとりたいと思います。</p> <p>「2 青少年の自立応援」については、先ほどの資料34アンケートの中にも、質問6「ニート・引きこもりにならないためどんな働き掛けが必要？」などが入っていますが、今日のヒアリングでは時間の関係で聞くことができませんでした。どのようなことが考えられるかいかがでしょうか。</p>
委員	<p>今日の中高生との意見交換の中で、「大人と話したい」であるとか「大人と一緒に事業をしたい」というのが大半を占めていました。これは非常に意外でした。今日来た子どもたちは、そういった楽しかった経験があるからそういう意見が出たと思いますが、その部分をもう少し大人の働き掛けを工夫したら、もう少し子どもの支援活動に繋がるきっかけになるような気がします。</p>
会長	<p>資料34の12頁、質問7では「はい」が14人、「いいえ」が37人ですが、ヒアリングでは逆に「はい」が8人、「いいえ」が3人でした。中高生委員会等で大人との接点がある子どもたちだと思いますので、そういう中でこういう声が出ていますので、逆に言えばそういう繋がりがあれば、むしろ積極的にいろいろな大人と接したいということだと思います。</p> <p>今日の子どもの声で言いますと、「いいえ」が3人いました。1人はあまり人と話すのが好きではない子と、もう一人はいまの子どもを代表する意見だと思いますが、「大人はまじめくさい。学校でも児童館でも家でも間違ったことをやっているにも関わらず、そういうことを言わずにいつもきちんとしている。そういう大人は嫌だ」ということで、これも一つの声だと思います。</p> <p>むしろ「はい」というのが8人も居たというのが注目すべきで、大人と一緒に何かをやってみたいという声がありました。何かに突出した大人の話の聞くと、自分が高まっていく、ためになるということでしょうか。大人との関わりを積極的に求めている、それを自分の自立の力にしたいというのを感じました。スポーツ好きのバスケットをやる子どもからすると、その視点から自立が高まるということだと思います。同年齢だけではなく大人と高いレベルを持ってやることにより、レベルアップが図れるということだと思います。</p> <p>全体として今日の「はい」と言った子は、大人との関わりの中で自立支援という機会が捉えられ、ことさらにニートの子どもに何かという対策もあるとは思いますが、日常的に児童館活動を通じて大人と接しているということが、キャリア形成をしていく上で非常に重要なことだと思います。何か特別に手を打つこともあるとは思いますが、それよりも日常的な取り組みの中で子どもが自立していくことをやるのが児童館の本務なのではないかということを感じさせられました。</p> <p>しかも、子どもたちがそれを非常に求めているというところに何か核心があるように思いました。</p>
委員	<p>この資料34の12頁、質問6の中にもありますが、職業体験は公平的に見ているような意見があります。児童館の中でのイベント・企画の中でも職業体験があったと思います。館によってできている児童館もあれば、まだの児童館もあるでしょうし、中学校も恐らく全ての中学校一律ではないと思います。小学校でも一部、お手伝い体験みたいなものを持っているところもあります。</p> <p>こういうのは、もしかしたら学校との協働という形で、より積極的に参加できるかもしれませんし、機会はあればあるだけ良いので、児童館の中で重点的なプログラムにしていくのも一つの手だと思います。</p>
会長	<p>大人の人と一緒にイベントに取り組める、いままでに見つけれられる、家と学校とはまた違う体験ができる、というような声も出ていましたので、職業体験あるいは大人と一緒に活動するという機会は必要だと思います。</p>
委員	<p>「いいえ」と言った意見は大人の姿勢が関係していると思います。大人の姿勢に嘘が多いというところに「嫌だな」と感じている子どもが多かったのも、大人の対</p>

	<p>応によっては進展できるのではないかと思います。</p>
委員	<p>今日のアンケートとは少し違いますが、この間ワークショップを児童館で開催しました。少し前に高円寺で放火殺人事件があり、引きこもりの子どもの犯行ということがありました。そのことを考えるワークショップに小学生の保護者が参加していましたが、子どもたちも孤立しているけれども、思春期の子どもを持つ親も孤立しているので、親たちの居場所や親向けの事業があれば良いという声がありました。ここのところゆう杉でも思春期の保護者向けのプログラムなどを実施するようになったので、それを児童館でPRして参加していただくということもできると思います。</p>
会長	<p>あり方検討会積み残しの課題の「3 保護者・家庭支援」についてはどうでしょうか。</p> <p>先ほどの「大人と交流してみたいかどうか」という問いに「大人はまじめくさいので、いいえ」と答えた子どもは、質問1「いちばん安心してほっとできる場所は？」という問いに対して、「家庭」ですか「家」ですかと聞いた子ですよね。</p> <p>つまり「家」という物理的空間は良いけれども、そこに親が居る関係は嫌でほっとはできない。親子関係は急には変わりませんから、こうした児童館の取り組みを通じて別の大人と関わることによって、大人のイメージを変えていくことにより、年齢とともに親子関係も見直すプロセスが必要だと思います。</p>
委員	<p>少し飛躍しすぎた話かもしれませんが、今日こちらに伺う前に「夜回り先生」の講演を聞いてきました。あの先生の姿勢というのは、ほとんど認め、「いいんだよ」というところから始まります。「いいんだよ」と言ってから「でもね」というのが入って、それが自然に受けられるようにまず認めてあげるという姿勢が、とても暖かいです。そういうものはニートや引きこもりじゃなくても、一般のお子さんでもそのように感じていると思います。</p> <p>ともすると中高生はこうしないからこうだ、というものが先に出てしまうと難しいと思います。大人の姿勢がもう少し変われば、少しきっかけがつかめると感じました。</p>
委員	<p>「まじめ臭くてつまらない」と発言した子どもは、普通の育ちだと思います。質問7の「はい」と「いいえ」の数というのは、これが普通の数であって、今日来ていた子どもは本当に優等生ではないけれども、私たちが求めていた答えを言っている子どもたちというか、あまりにも立派すぎて私は少し驚きました。</p> <p>彼らの育っている家の家庭支援は全然関係ないとは思いますが、「2 青少年の自立支援」「3 保護者・家庭支援」の部分で、先ほどいろいろお話が出ていましたが、お母さんたちが集える場所が必要という話がありました。そういうものを行政としてはないけれども、本人たちを引き出すのはもちろんのこと、支援が必要なのはその子に関わっているまわりの大人だと思います。そういう人たちを支援できるサークルではないですが、集まりやNPO団体でも良いですが、電話相談室で受けたときに「こういう集まりがありますか」といえるのではないかと思います。</p> <p>本人ではなく関わっている人たちへのサポートの方が必要ではないかと思っています。</p>
会長	<p>今日のヒアリングは小学校低学年・高学年、中高生と全部が繋がって見えました。それが全部見えるような場所が必要なのですね。小学生の子どもたちは、椅子に脚を上げてしまったり座り込んだりしているわけですが、ところが帰るときにはきちんと挨拶をして、「今度はいつこういうことをやるのでしょうか」と聞いてきたりするわけです。そういう子が5年経つと中高生のようになるわけです。</p> <p>そういう姿を親が見えるということが大切だと思います。いまはああいうようにどうにもならなくても、中高生ぐらいになるとあのような中高生になるということを見る機会が親にはないと思います。自分の子どもの育ちが見えないわけです。</p>
委員	<p>でも、子どもは嫌ではないでしょうか。自分の親がそばに居るといのは。</p>

会 長	<p>ですから今日我われが聞いたのと同じように、親がたまにそういう子どもの声を聞いたりする機会が、児童館などが若い世代と親が接するようなプログラムをつくるか、一緒に誰かの講演を聞くなど、そういう親支援の取り組みを、子どもが育っていくプロセスを見ながら、実施するという事は児童館でしかできないと思います。</p> <p>それから、ニート・引きこもりの子どもに対する取り組みも考えなければなりません。中高生世代が大人と関わることによって、大人の職業体験や一緒に社会的な取り組みを行う中で学ぶ機会を増やすというのが、児童館ならではの王道ではないかと思います。</p> <p>中高生委員会ではいつも中高生と職員の方が接しているわけですね。</p>
事 務 局	職員だけではなく、青少年委員の協力員の方に同席していただく場合もあります。
会 長	もっと子どもの声を聞く機会を増やすことが必要だと思います。家の中では年頃になると角を突き合わせる事が普通にあり得ることなので、家庭あるいは学校とは違う大人と触れ合う場、あるいは大人も子どもと触れ合う場というものがどこかにないといけないと思います。
委 員	いまの話で、そういうようなイベントを定例化しても面白いと思いました。うちの子どもは中学生ですが、少し変わった学校で年に2回か3回、三者協議会というもの定例化しています。自由参加ですが、PTAと生徒と先生とでテーマについて話し合いをして、PTAがテーブルを起こして皆に配ります。今日みたいな聞き取りは、父兄は皆聞きたいし、中高生はこんなことまで考えている、小学生もここまで考えているということを親は知りたいと思うので、イベント化するというのも良いと思います。
委 員	<p>中高生は児童館に遊び場をつくるというよりは、グループ運営の方が効果的ではないかと思います。体育室は狭いしバスケをやるといっても使われてしまっているのであれば、グループ化してサークルのようにして、いくつかのグループをつくってもらい、そのグループに月何回・週何回か貸し終わるときに、公立の体育館を紹介するか図書館を紹介して、その中で利用先の紹介をもう少し児童館の外へ流していく方法が良いのではないのでしょうか。</p> <p>児童館に乳幼児から中高生まで全てを収容して活動させようというのは無理です。かといって全く利用できないと子どもはいじけてしまいますから、仲間たちを作ってあげて、スポーツをやる人は児童館ではなくもう少し広い体育館をとってあげるとか、そういうところを紹介して仲間づくりをさせるという方向を積極的にしたら良いと思います。</p> <p>時間延長して6時から9時まで児童館は中高生の時間というようにすれば可能かもしれません。責任あるグループのリーダーがいれば、その時間帯だけ児童館を貸してあげることができると思います。</p>
委 員	特色ある児童館というのは、広大な体育館を持っているということでしょうか。ゆう杉並は広いですね。
委 員	ゆう杉でも子どもが企画を立てる活動などやっているのでしょうか。
事 務 局	中高生による自主企画を実施しています。
委 員	活動は盛んですか。
事 務 局	結構開催されています。17年度は年間20件ぐらいでした。ただ、20件といっても自主企画ですので、準備がいろいろあります。一つのイベントを開催するのに数回、多いもので10回程度事前に集まって打合せや準備をしていますので、件数としては20件前後ですが、成功させるまでの取り組みはなかなかたいへんです。
委 員	そういう場合は職員が指導に入ったりするのですか。
事 務 局	一応、実施するのは君たち自身だよと言いつつ、必要に応じてアドバイスをしています。

委 員	質問になってしまいますが、例えば小さな児童館で中高生委員会が活動をしていて、少し広いスペースを利用したいというようなときに、職員が「この時間ゆう杉を借りられるようにするから、そこに行こう」というようなことはできますか。
事 務 局	ゆう杉の体育室は少し特殊で、いわゆる児童館の遊戯室です。だれでもいつでも利用できるということが基本にありまして、朝9時からよる7時までの間は団体で場所を占有するという利用の仕方は取り入れていません。夜の7時以降2時間であれば、例えば和泉児童館の中高生が自主的なグループを作って、体育室を借りて何かの活動をする事は可能です。
委 員	恒常的なサークルでなくとも、今回これをやってみようという形で借りて、時間帯としてはその時間を使うということですね。
事 務 局	はい。
会 長	先ほどから出ている議論を繋げると、ゆう杉ほど規模は大きくないそれぞれの児童館が時間を9時くらいまで延長して、グループ化した子どもたちがきちんと使えるようにして、その時間の管理をNPOの方であるとかボランティアの方できちんと見守るようにして、その時間を活用する特色を持たせることが考えられるかもしれません。
委 員	ゆう杉ほど専門化した大きな施設でなくとも、比較的大きな遊戯室を持つ児童館はあると思います。そういうところを組み合わせることが考えられると思います。ある時間は我慢しなければいけない時間帯もでてくるとは思いますが、中高生は活動範囲が広がりますから、ある程度時間的にも親も理解できるでしょうし、平日、通して使える環境を維持しなければいけないのは、小さなお子さんだと思います。 高学年や中高生は、イベント的に動き回るような割と近いところの児童館どうしが上手く連携できればそういう形での解決が図られると思います。
会 長	時間も限られていますので、議論は不十分かもしれませんが、とりあえず「2 青少年の自立支援」「3 保護者・家庭支援」はここまでにしようと思います。 「6 学童クラブの需要増への対応」についてはまだ手付かずですので、ここをこれから議論したいと思います。
委 員	どこの学童クラブも「待機児童の解消」というのは大きな課題になっています。その背景には保護者の就労保障だけではなく、子どもが安全に過ごせる場を求めるということが多くなっていると思います。 杉並でも登録制実施により以前であれば入らなかったというか、低学年であれば何とか学童に通わせるけど、高学年になれば止めたいというのがありましたが、いまは親が不安になり、高学年でも学童に入れているというのがあると思います。 また、まるっきりフルタイムで月曜日から金曜日まで働いてなくとも、以前であればパートや自営業の方は時間をつくり何とか面倒を見て学童に入れなかったのが、安全な居場所を確保するということから学童に通わせるということで、予想した以上に学童クラブの登録児童が増えています。 教育委員会で実施する居場所事業が来年度どうなるかわかりませんが、他の居場所と両立できれば、解消される方法もあると思います。 私は平成15年のあり方検討会の時に学童クラブ登録制の検討グループに所属していました。そこでは杉並区の学童クラブは小学校四年生まで受け入れていますが、一・二年生までの養育の手厚さと三・四年生は同じではなくても良いのではないかという議論がありました。また、登録制に移行するときに、学童クラブの入会要件をもっと厳しくしても良いのではないかと、利用料を改定してはどうかなど、いろいろな議論がなされましたが、採用されずにいまの登録制が開始されています。 定員制の時期に、私が勤務していた学童クラブで待機児童が居ましたが、そのときはランドセル登録という内々の事業を実施していました。学童の定員に入れなかった高学年のお子さんで保護者の入会希望が強い場合に、学校から家に帰らないで、直接ランドセルを背負って児童館へ寄り、ランドセルを預かって夕方まで児童館で遊んで帰るといった形をとっていました。

	<p>夏休みについては家に帰ってお昼を食べるというのではなく、お弁当を持ってきて空いている部屋でお昼を食べて過ごすケースもありました。もう一つの児童館でも父母会の要望でそのようなランドセル登録を個別対応してほしいという要望があったので、四年生以上で学童クラブに入れなかった子どもたちのうち、保護者の要望があった児童を登録して、学校から直接児童館に来て、ランドセルを預かり出欠のチェックをしていました。おやつについては、保護者が袋に詰めて持たせていました。特にプログラムについては設けず、児童館のものに自主的に参加していました。そして、帰宅時間になったらランドセルを返して、帰宅させるということをやっていました。</p> <p>それは館の個別対応ではありましたが、もしもそのような形がシステム化できるのであれば、いまの学童クラブに登録しなくても、そういう過ごし方は可能ではないかと思います。</p> <p>また、学童クラブへの登録は保護者の就労が要件ですが、就労していなくともPTA活動や親の活動などで児童を預かって欲しいというニーズがあるので、そういう方も先ほど説明した方法がとれば良いのではないかという議論をしたこともあります。</p>
会 長	先ほどの方式をランドセル登録と呼んだとすると、ランドセルを児童館に預けたあとは、児童館で遊んでなくても良いのですか。例えばもっと広いところや友達の家に行っても良いのですか。
委 員	そのときは一応、児童館の中で遊ぶということにしていました。
会 長	ランドセルを児童館に置いて、他へ外出したいという声が、今日のヒアリングでは高学年からありましたよね。預かる側としてはどこかへ行ってしまわないかと不安ですが、ランドセルだけ預かってどこかへ遊びに行くというのもあっては良いのではないのでしょうか。
委 員	学童の場合、児童の出入りは厳重ですが、ランドセル登録の場合は一般利用の扱いですので、ランドセル置いたまま外に遊びに行くということもありました。
会 長	いろいろな工夫が考えられると思いますが、いまのご意見は子どもの成長・発達に即して、ケアの仕方に細かな対応を取り入れることによって、需要増が就労のために必要だという方もいれば心配なので安全な居場所を求める方もいますから、そのあたりを多様に受け止めていく工夫をしていこうという提案だと思います。
委 員	いまそれについて提案というわけではなく、私の経験からの紹介になります。
会 長	先ほど出ていた他の居場所づくりが進むということへの期待。つまり、すぎっ子クラブのような「地域子ども教室」が出来ていくと、就労だけではない安全な居場所が必要というニーズはそちらへ吸収されるのではないかということですね。いまは全部が学童で受け止めているようなものが、もう少し分散されるようになるという面もあるのではないかと思います。
委 員	とても意地悪な意見かもしれませんが、本当に必要な家庭と安心安全を求める家庭を、公平な目から見て優先順位をどうするか考えてみると、そう必要ではないのではないかと思える保護者の姿勢もあるようなので、そこも考えていかないとすごく難しいと思います。

	うようにして良いのかということはあると思います。
児童青少年課長	<p>需要増ということですが、ここ三年間で500人入会児童が増えています。それと同じだけ就労しているお母さんが増えているかということ、恐らくそこまではないと思います。入会の状況を見てみると、入会要件を満たす就労状況にあるご家庭のお子さんを預かるというのは当然のことですが、現状では、入会要件を満たさない保護者が、入会要件を満たすように就労状況を変えてくる場合もあります。あと一日働けば良いのねというように。また調査したわけではないので、正確な話ではありませんが、就労証明書の中には本当のかなと思う内容のものもあります。</p> <p>安全安心の面で、担保のためにそういうことをして、登録をしているご家庭が増えている。だから三年間で500人も増えたというように現場の感覚としては捉えています。</p> <p>ただ、そうは言いながらも杉並は他区よりも厚く四年生まで制度上預かっているのを、こういう社会情勢の下で、今後三年生までに戻しますということができるとかというとなかなかできにくいので、先ほど委員がご説明したような方法で預かっていたということだと思います。</p>
委員	<p>ですから本当に必要な就労条件を満たす保育の状況と、そうでない状況を区別する必要があります。確かに社会的に赤ちゃんの一時保育はかなり進んでいて、お母さんたちはとっても喜んでいて、余裕が生まれている気もします。そういう時間も必要だとは思いますが、本当に必要な学童の問題と区として必要だと思えるサービスと別個に考えた方が問題がはっきりすると思います。</p>
会長	<p>こういう考え方はどうでしょうか。例えば就労している、していないということで選り分けるといってもありますが、そもそも今の子どもたちは子どもの数が少なくなって、仲間との関わりも単発な関わりではなく、まるで兄弟のように関わって育てないと、我が子は育たないのではないかと考えている親がいて、その親は働いていない。だけどそういう場合は学童保育しかないのだから学童保育に入りたいという理屈をたてたとします。この場合は確かに働いていないけど、他にそういう場所がない。</p> <p>子どもが育つためにそれが不可欠だという理屈を立てた親がいた場合に、いまの制度では学童への入会は就労が条件ですが、子どもの発達という点で学童保育が必要だという親がいたとすれば、それはいまの状況の中では受け止めることは出来ないわけです。ところが子どもが育っていく上では、そういう場を求めているということが言えるかもしれません。</p>
委員	それは保育指導が本当に全部必要というわけではないですよ。それは居場所があって、子どもたちが集まれる環境があれば成り立つわけですよ。
会長	そうすると、学童保育ではないけれどもそういう子どもたちの居場所づくりが必要ということですね。
委員	基本的にはそれは児童館の一般的な機能だと思います。
会長	けれども、児童館の方が待機児童も含めて学童保育が肥大化してきて、なかなかその機能が細くなってしまっている状況があると思います。
委員	<p>若い人たちの就労状況やお給料を考えると、かなり大変だと思います。ですから小さいお子さんを持ったお母さんも働かなくてはならないという現状はあると思います。本当に必要な受け皿は必要だと思います。</p> <p>そこに果たして専門家が 필요한のか地域の方が 필요한のかということを考えていかないと、この問題を一所くたに考えても整理できないと思います。</p>
会長	必要性の高い方は学童クラブで受け止め、それ以外の方はもう少し多様な場を作っていく、また、そのためにNPOや区民ボランティアなどの取り組みを広げていくという形で対応するというところでよろしいですか。
児童青少年課長	まだ、あり方検討会の積み残しの課題の1～7まで完全に議論が行き渡ってはないと思いますが、今日資料36を出させていただきまして、区民・NPO等との協働の推進については、過去何回かに渡って議論をしていただいています、非常に

	大きなテーマですので、できればこれを基にして残りの時間で優先的にご議論をお願いしたいと思います。
会 長	<p>あり方検討会の積み残しの課題の1～7まで、とりあえずひと通り議論しましたので、まだ一度も議論していないという項目はなくなりました。資料36については、既にかなり議論していますけれども、検討会が今後の児童館のあり方を考えていく場合にはどうしても、区民・NPO等との協働という部分は非常に重要な柱になると思います。</p> <p>資料36の三つのチャートは既に議論の中で出てきたことをまとめたものです。一足飛びに委託することはなかなか難しいでしょうから、その前段階として杉並地域大学との関わりでスキルアップを図ることができるようにする。あるいはゆうキッズ・ひととき保育事業への参画など、いくつかの段階を踏んで担える主体を育てていく。そのように段階を踏んで、最終的には区民やNPO等が担い手になるという流れになっています。</p>
委 員	<p>私は、NPO法人立ち上げということに引っかけります。すぎなみ地域大学が本当にスキルアップするところで、そういう機関として充実するようになれば、本当にこの流れは良いことだと思いますが、必ずNPOにならなければ支援ができないという仕組みではどうかと思います。NPOになったらしっかり育つ仕組みにあるかということ、必ずしもそうではないと思います。むしろNPOになりなさいというところで、NPO貧乏になっている傾向にあると思います。その仕組みを行政側がしっかりと立ち上げてもらわない限りは、NPOを立ち上げて必ずこういうところに関わらなければならないという仕組みは、私は納得できません。</p>
委 員	<p>私もいまの意見に賛成です。NPO法人というと一つの事業として立ち上げるわけです。そうではないレベルで、例えば有償ボランティアという形で、イベント単位で考え、運営を事業として委託するのではなく、児童館が考えなければならないいくつかのプログラムを任せるとスタイルから入っていった方が自然だと思いますし、地域力であるとか社会性を持った人間になるための手段になると思います。</p>
会 長	<p>これまでの議論で、この全てがNPOでなければならないということではなくて、ボランティア団体がいくつかのプログラムに参画・実施するという含んでいましたよね。</p>
児童青少年課 長	<p>もちろんそういったことを全く否定しているわけではなく、区としても41館の児童館がありますし、その全てを委託するという立場になったとしても、それは何年がかりとなりますし、この間の議論の中でも全てを委託して良いのかという議論もありましたので、委託しない館については今までどおりの協力・参画・連携という形の協働はあると思います。</p> <p>もし1館ある程度の部分を全てお任せするとすれば、こういう運営主体があって、その主体ごとでこういうプロセスが必要になるのではないかということをお示したものですので、全てがこの資料36に集約されているというわけではありません。</p>
委 員	<p>例えば、団塊の世代の方々が卒業して、自分たちの活動の中心の軸足をここに移動してでもやろうという方々が出てくる上ではすごく良いプランになると思います。その人たちが自分たちの生活のある一種の糧の一部にもなるでしょうから、NPOを立ち上げる効果もあると思います。</p> <p>杉並区は港区や新宿区のように、特に大きな事業所を持つ区ではないですから、「まち」をもう少し活性化していかないと駄目だと思います。「まち」というのは何かということになると、「まち」でいちばん駄目なのは商店街です。そういうところにもっと働きかけて、先ほどの職業体験ではないですけども、そういうスタイルで協力を求めることが良いと思います。彼らも飯を食べていかなければならないので、例え少額でも有償化して委託していくとか、そのノウハウを児童館のプログラムに参画してもらい作り上げたりするようなことを始めて行かれたらどうかと思っています。「まち」は活性化すると思います。</p>
会 長	<p>この資料36はあくまでも児童館の機能を委託していくとすれば、こういうステップを踏まざるを得ないのではないかというものになります。いずれにしても、社</p>

	<p>会福祉法人あるいはNPO法人というように、法人格は少なくとも必要なのではないかということで出された資料になります。もちろんその他のプログラムなどの取り組みについて区民・ボランティア・地域の団体と参画していくことは多様にあるわけで、一つの協働の中身としていずれ書かれると思います。</p> <p>資料35の柱立てが大体今まで重要課題として出されたものに沿ってはいっていると思います。いちばん大きな課題として、いまある児童館の差別化といいますか個性を持たせるとなると、具体的にどこにどういう機能を持たせるかというシミュレーションをやらなければなりません。そこに踏み込むこともやらなければいけないと思います。そういう中からこの児童館は委託していく候補であるとか可能性があるというようになると思います。もし、資料36のようなことが出てくるとすればですが。</p> <p>ですから、前の段階のそれぞれの児童館の専門性なり条件なり特徴なりの検討をしなくて良いのかということです。それはまだ反映してはいませんよね。それらも含めて次への課題と会議の日程的なことと、整理する課題を最後にまとめておきたいと思います。</p> <p>議論はとりあえずここまででよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>一点よろしいでしょうか。資料36ですが、もしかしたら前回第9回で検討されたことなのかもしれませんが、この図であれば全ての児童館が最終的に委託になってしまうように見えますが、直営の児童館が残るのか全ての児童館が委託になるのかを今回の検討会でそこまで考えるのかどうか。特色あるというところの中にも、委託であったり直営かという、そのところの大枠の確認がないといけないのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>議論としては直営を残すというのは基本ではないでしょうか。いままでの条件を踏まえた上で、条件のあるところはNPO法人なりに委託ということを検討することです。押し並べてすべてそこに移行するためのイメージではないと思います。あくまでも委託する場合にはこういう段取りが必要ということで、限定付ですよ。</p>
児童青少年課長	<p>この資料36の到達点を見ていただくとわかるように、直営館が委託館を補完するという絵柄になっています。全て一律的にというわけではありません。</p>
委員	<p>到達点の中で太い矢印が一番上を向いています。</p>
会長	<p>ですからむしろここでの大きな議論の筋は、それぞれの児童館の今ある条件、老朽化の問題もあるでしょうし、スペースの問題や離れているなどの地理的な問題もあると思いますので、そういうことを全部検討して多様な活用の仕方を考えて行くということで、その一つの方法としてこういうものがあるということだと思います。ただ委託するとなると生易しいものではないので、相当きちんと手続きを踏まないといけないし、そういうNPO団体などを育てない限りは無理ですから、それにはこういう歩みでNPO団体などが育つのかということも検討しなければいけません。</p>
委員	<p>ひとつ言い忘れてしまいましたが、平成15年のあり方検討会で、協議会を設置するという報告が出ていますが、実際は委託した学童の協議会は設置されていますが、それ以外の児童館の運営全体を地域と住民が入った形で検討するという協議会は設置されていないので、それも必要だと思います。区民ニーズをはっきりさせるとか区として最低基準はどこというのを確認する必要があると思います。</p>
6 その他	
会長	<p>いまのご意見も含めて、課題を整理し、まだ充分論議されていないところ、抜けているところに印をしていただいて、資料35のバージョンアップと言いますか、そこを軸にしながら議論をまとめて行きたいと思います。方向としてはよろしいでしょうか。問題は日程ですが、予定では次回第11回目が8月28日になっています。それでよろしいでしょうか。</p>
児童青少年	<p>いままで月二回ペースでかなりハードなスケジュールでご検討いただきまして</p>

課長	<p>たけれども、8月は夏休みということで、皆さんの日程をつき合わせたところ二回開催することができません。次回は8月28日ということになりまして、一ヶ月空きます。報告書の素案は9月中にまとめて、10・11月に区民の方からご意見を伺って、12月に最終報告というスケジュールでございますので、逆算しますと次回の8月28日の時点である程度、報告書素案の骨子的なものが出ていないと、9月はどんなに頑張っても二回しか開催できませんので、その中で素案を固めるのは難しいと思います。</p> <p>議論が不十分だったところは、今日大分ご議論いただきましたが、まだ具体的な方向性まで行き着いていないところが多いので、たいへん申し訳ありませんが、宿題という形で、今日お出ししました「あり方検討会の積み残しの課題」の各項目について、できましたら8月5日土曜日ぐらいいまでにご意見を、メモでもFAXでもメールでも、場合によっては電話でも構いませんので、ご意見を頂ければと思います。それを基に事務局で、まとめられる範囲でまとめさせていただいて、どうしてもまとめられないところは次回改めてご議論いただくという形をとらせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>箇条書きで良いということです。議事録が膨大に出ていますので、そこには確定はしていませんがずいぶん議論したところ書かれていますので、いままでの議事録と資料35及び「あり方検討会の積み残しの課題」にもう一度目を通していただいて、メモを8月5日まで事務局に提出いただくようお願いいたします。</p> <p>次回は8月28日ということですのでよろしいですね。9月の日程はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>9月の日程は日程調整表を送らせていただき、決まり次第、第11回の開催通知と併せて送付させていただきます。</p>
7 閉会	
会長	《閉会挨拶》